
ありがとう、を君へ。

紅月 聖夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう、を君へ。

【Nコード】

N2900Y

【作者名】

紅月 聖夜

【あらすじ】

『私はお前が大好きだよ。』

悪魔に光を与えられた娘。娘に世界の光を教わった悪魔。悪魔は娘を愛していた。たとえその想いが伝わらないと分かっても。

どうしても恩返しをしたい。

ありがとう、を君へ。

プロローグ

『××！お庭でね、すごく綺麗なお花みつけたの！××にあげる！』

俺は、『人間』を欲望の奈落に突き落とし、手駒に使う『悪魔』という存在だ。

悪魔は人間を餌としか、思っていない。俺もその一匹だ。

だけど。

俺を見たこともない世界に引き込んでくれたのは彼女だった。悪魔が嫌う、光の美しさを教えてくれた。

俺はここに誓おう。

彼女を未来永劫護ると。

『××、私はお前が大好きだよ。』

俺はお前が大好きだ。

それはお前が言っていた『大好き』と意味は違うのだろう。ならば俺は『愛している』。

ありがとう、を君へ。

始まり。

「……………やっと、会える」

ひらり、ひらり舞う満開の大桜。

その切れ目から差し込む温かな光に目を細めた。

太陽を見つめながら、言葉を紡ぐ。愛しそうに、大切に、その言葉を。

「
エリカ、エリカってば！」

「……………、え？ああ、ごめん、聞いてなかった…」

大声で叫べば、上の空の彼女はようやく意識を傾けた。

彼女の様子に友人は、何年分の幸せが一気に抜けていくであろう深い溜息をつく。

「……………いいよ、友情にヒビ入ったから」

「「う、ごめんなさい！…で、どうしたの…？」」

「……………今日ね、転入生来るんだってーうちのクラスに！」

「へえ……………、こんな時期外れに……………？珍しいね」

「だしよ！？しかも、オトコノコ、だってー」

きゃーwwと喜びを全身で表現する友人に、彼女…白川エリカは微笑んだ。
可愛い、というか…とりあえず素直だなあ、とその後苦笑い。
それに気付いた友人がエリカを小突いて、直後入ってきた担任により話は中断された。

「もう知っている奴もいると思うが、うちのクラスに転入生が来ることになった！黒森、入れ」

担任が、扉の向こうにいるであろう転入生に呼びかけた。

それに応えて、ドアが開け放たれる。

入ってきた少年に、女子生徒達（エリカ以外）は感嘆の溜息を洩らした。

「某事情で引越してきました、黒森夜です。よろしく」

夜、と名乗った少年は、絶世、と言ってもいいほど整った顔立ちをしていた。

制服の下に着込んだパーカー、耳にはめている紅と蒼の石のピアス、彼の放つ雰囲気全てが彼を惹きたてている様だ。

何より威圧感のある、切れ長な目に宝石のような異彩の深紅の瞳。

エリカは吸い込まれたかのように彼に見惚れていた。

「じゃ、黒森は白川の隣に座ってくれ」

「うえーい」

啞然とした表情のエリカをよそに、夜は着席する。

そして夜はエリカを見ると、笑みを浮かべた。すごく、すごく、優しい笑顔を。

「よろしくな、白川…何だっけ」

「あ…………えと、え…………エリカ、」

「じゃあ、エリカ。これからよろしくな」

「よろしく…………夜、くん」

「くん付けじゃなくていいから。気軽に夜って呼んでくれ」

「う、ん。よろしく、夜」

おう、と言う彼の顔は、本当に優しい笑みを浮かべていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2900y/>

ありがとう、を君へ。

2011年11月12日05時23分発行